

■名古屋難民支援室(DAN)設立10周年記念イベントから

名古屋難民支援室(DAN)^{*5}は2012年に特定非営利活動法人として設立されました。名古屋地域の難民認定申請者数の急増を受け、難民が法的に保護され、自立した生活を安定して送れるよう支援しています。7月3日に開催された10周年記念イベントでは、右のようなメッセージを発信しました。



名古屋難民支援室

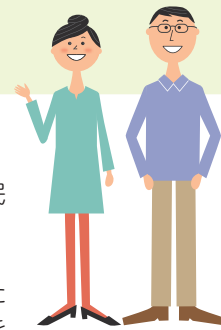
▲スタッフが難民の相談に乗っている様子

▶難民への関心と支援を

今般のウクライナの惨状を見て、心を痛めなんとか力になりたいという気持ちから、市民一人ひとりの難民への関心も高まっている。かつてないほど行政、企業、民間団体が連携し、彼ら避難民の受入れと来日後の支援が行われている。ただ、難民を生み出す原因となった紛争や深刻な人権侵害、差別などは、ウクライナだけではなく他の多くの国々でも起きていることに目を向けてほしい。日本へ逃れてきたそうした2万人もの人々に対しても関心を持ち、温かい支援をしていただきたい。

▶難民問題を政治の重要事項に

ウクライナ紛争を契機に難民に関心を寄せる市民が増えてきている今、政治も難民問題を重要事項として取り組むようになってほしい。難民を「管理する(取り締まる)」のではなく、「保護する(助ける)」という視点で。



■日本の難民認定の状況に変化が

- ◆2022年8月、トルコ国籍のフルド人としては初めての難民認定がなされました。今回認定された男性は過去2度にわたる不認定の後、処分取り消しを求めて提訴、札幌高裁が「難民に該当する」と認めました。これを受けて出入国在留管理庁が男性を難民として認定しました。
- ◆昨年8月のアフガニスタン政変後、タリバン支持者による迫害を恐れ、官民の支援で日本に避難した800人余りのアフガン人のうち、首都カブールにある日本大使館に勤務していた現地職員や家族をはじめ計133人が難民として認定されました(2022年8月26日現在)。



*5…本誌2021年8・9月号に、名古屋に暮らす難民について同団体の羽田野真帆さんの寄稿を掲載しています。▶

私たちができること

★難民問題に関心をもつ

難民問題に取り組んでいる国際機関や団体のウェブサイトを見る

主に世界の難民問題に取り組む団体

◆UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)

世界中の難民の保護や支援に取り組む国連機関。難民映画祭なども開催。



◆国連UNHCR協会

国連UNHCR協会は、国連の難民支援機関であるUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の活動を支える日本の公式支援窓口。



◆特定非営利活動法人 難民を助ける会(AAR Japan)

日本生まれの国際NGO。現在は16か国でプロジェクトを展開中。日本国内にいる「ウクライナ避難民等」への支援にも携わる。



プログラムコーディネーターの櫻井佑樹さんより

「実際の難民キャンプの現場では、難民のニーズへの対応に尽力してきました。ウクライナ避難民の受入れを通して、日本の人たちに広く『難民』に関心をもってもらいたい。ウクライナの人を受け入れるが、中東の人を受け入れることが難しい。それはどうしてかを考え対処していくことが、難民問題の解決につながると思います。」

主に国内の難民問題に取り組む団体

◆公益財団法人 アジア福祉教育財団難民事業本部

政府(外務省・文化庁・厚生労働省)から委託を受けて、難民が日本で自立、定住していけるよう支援を行う組織。



◆特定非営利活動法人 難民支援協会(JAR)

日本に逃れてきた難民が厳しい状況を乗り越え、自らの力を活かして希望をもって生きられるよう、一人ひとりに向き合い支援を行う。



◆特定非営利活動法人 WELgee(ウェルジー)

日本にいる難民が自らの未来を描けるよう、日本人・日本社会と難民の人たちとのパートナーシップを創造する活動を実践。



◆特定非営利活動法人 名古屋難民支援室(DAN)

東海地方の難民の拠り所として、法的手続きのほか、年間1,000件以上を数える相談対応、食料支援や地域での定着支援等を実施。



名古屋市のウクライナ避難民支援

ウクライナ避難民の方々が名古屋地域で安心して生活できるよう、体制を整え、継続的に支援する事業



↑ロゴマークは、名古屋市内に住むウクライナ避難民エリザベータさんが、平和への願いを込めてデザインしたものです。



▲名古屋地域に暮らすウクライナ避難民を対象とした日本語教室で、七夕飾りも経験。短冊には「平和への祈り」が書かれていました。

★映画や本などを見る

◆「第17回難民映画祭2022」

開催期間:2022年11月20日~12月14日 主催:特定非営利活動法人 国連UNHCR協会



広報担当の浅井健次さんからのメッセージ

「難民となった人たちにも、愛する家族や友人、それぞれの大切な人生があります。映画は、困難を生き抜く彼らの意思とその力強さ、信念と希望を伝えてくれます。世界各地から集めた珠玉の作品を、オンラインを含む上映会でお届けします。」

◆その他映画や映像作品等を検索してみる

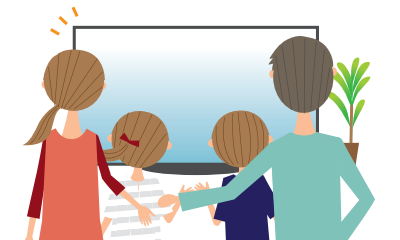
「難民」、「映画」、「作品」など検索キーワード

◆難民に関する本や記事を読む

本誌の「ぶらりライブラリー」(P.8)でも「難民」を扱った図書を紹介しています。

◆セミナーに参加する

NICが開催する「地域の国際化セミナー」で、母国を後にせざるを得ない人々と共に暮らす社会について考えます(詳しくはP.9)。



★考えてみる



- ◆紛争が起こり、自分自身や家族に危険が迫っていたら、あなたは国外に逃げますか。
- ◆国外に逃げなければならなくなったら、あなたは何を持って行きますか。
- ◆誰一人知人や友人がいない未知の国に暮らすことになったら、どのような困難があると思いますか。どのような支援が必要ですか。
- ◆「自分は、大地から引き抜かれて、岩だらけの土地に捨て置かれた木のようなものだ」祖国に妻と幼い子どもを残して逃れてきた男性が、難民申請が不認定になった時の言葉です。この男性の置かれた状況、気持ちを想像できますか。共感できますか。

★行動する

生まれ育った場所とは違うところでも、そこにしっかりと根を張り、花を咲かすことができる世界に「難民」という存在を知り、その問題に気づくことで、自分なりの行動につなげてみませんか。上記の団体などの活動に参加する、寄付する、家族や友人と難民について話すなど、それぞれ自分ができることを実践することが、一人ではできない大きな変化や結果につながっていきます。